

⑥授業展開モデル（基本形）

算数科	授業の流れ	問いをもち 追究し続ける子ども	授業の流れ	道徳科
問いをもち、論理的、統合的、発展的に追究し続ける子ども			問いをもち、本音で語り、多面的、多角的に追究し続ける子ども	
1 学習課題と出会う。 子どもの心をゆさぶる出あいの工夫 →既習事項、生活経験、友達との違い。 →素朴な考え、不完全な考え、生活経験を生かす。 →判断しにくい（迷う）場面をつくる。	つかむ (課題把握)	問いを持つ 考えや思いを持つ	つかむ (課題把握)	1 ねらいとする価値への方向付けをする。 子どもの心をゆさぶる出あいの工夫 →子どもにとって、身近で切実な問題。 →自分事として意識できる日常場面の想起。 →既習事項、生活経験、友達とのずれ。 →判断しにくい（迷う）場面をつくる。
2 めあて（問い）を確認する。 子どもとともにつくる「めあて」の工夫 →子どもが「あれ？」とつぶやいた理由から学級全体に広げる。 →子どもの素直な反応から、本時で考えたいことや話し合いたいこと、追究したいことをしぼったり、明らかにしたりしていく。 →子どもの言葉を用いて、子どもの視点で設定するようにする。 <u>ノートに日付・めあて（問い）を記入する。</u>	見通す (ゴールの把握)		2 めあて（問い）を確認する。 「〇〇について考えよう」 →課題意識・問題意識をもつ。 →終末に再度「問う」ことができるように。 →子どもの素直な反応から、本時で考えたいことや話し合いたいこと、追究したいことをしぼったり、明らかにしたりしていく。 <u>ノートに日付・めあて（問い）を記入する。</u>	見通す (ゴールの把握)
3 個人思考をする。 →9割の子どもが見通しを持つ。 (多様で適切な方法を提示する) →算数的活動の工夫 〇つけ机間指導法 ・机間指導による実態把握。 ・「〇つけ」によって肯定的な声かけ。	自力解決 (個人思考)	学び合い 子どもの声で作る 教師の対話 コーディネート ○追究し続けるための問い返し 「それってどういうこと？」 ○ゆさぶり 「本当に？」 ○つなぐ 「続きが言える？」 ○確認 「自分の言葉で言えるかな？」等	3 教材を読み、教材における問題意識をもつ。 →本音を出し合い、葛藤を生む問い (中心発問に迫るための発問) 道徳的価値にふれる場面 道徳的価値に反する思いに共感する場面 ※人間理解を深めて、問題意識を持つ場面 →登場人物の立たされた状況に共感し、自分の生活につなげて気持ちを考える。	
4 考えを交流する。 子どもが問い続けるための発問の工夫 →発問の工夫 <u>多様な手段で伝えられるように</u> ex. 「絵や図を使って説明しよう。」 「式や言葉で説明しよう。」 <u>焦点をしぼって追求できるように</u> ex. 「似ている所や違う所を探そう。」 「いつでも使える方法を探そう。」 「よりよい考え方を探そう。」 →言葉かけの工夫 ・今まで考えていたことや思っていたことを疑い、考え直したくなるように。 ex. 「本当にそうなのかな。」 ・比較検討したくなるように。 ex. 「もっとよい考えはないかな」 ・思考をつなぐことで、全員が参加できるように。 ex. 「なるほど、そういうことか。」 ・自己をふりかえり、変容に気づけるように。 ex. 「こんなことに気づいたぞ。」 意味付け復唱法 ・必要に応じて発言の大切な部分を復唱 ・足りない部分は補完 →対話的な学び合いの場の効果的な設定。 →構造的な板書。 算数で大切にしたい言葉 ・つまり ・いいかえると ・だったら ・とすると ・以外 ・除いて ・かつ ・さらに ・または ・あるいは ・ならば ・すべての～について ・いつも ・当てはまる～がある	深める (協調学習)		学びを深める	4 道徳的価値の意義や大切さについて考える。 →ねらいとする道徳価値のよさを大切に気付くことができる問い【中心発問】 →人物が変容する場面（価値の大切さに気付く場面）での気持ち（清々しきや喜びなど）や考えに焦点をあてる。 →多面的・多角的に考える。 →自分事として考える。 →板書の工夫。 →考えを深める問い返し・補助発問

<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>子どもの声をもとにして、まとめていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・大局から詳細へ。 ・抽象から具体へ。 ・複雑から単純へ。 ・広義から特殊化へ。 ・文章から記号化, 数量化, 図形化へ。 </div>	<p>まとめる</p>	<p>追求し続ける</p>	<p>生かす まとめる</p>	<p>5 本時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡本時の内容項目と関わって「何を考えさせたいか」というねらいを強く意識する。 ➡めあてを再度問うことで、本時の道徳的価値の意義や大切さについて考えさせる。
<p>6 適用問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡よりよい方法で取り組むようにする。 ➡適用問題で、考え方や解き方を強化する。 ➡「〇つけ」の仕方を工夫する。 	<p>生かす (練習)</p>		<p>生かす まとめる</p>	
<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡学習内容や学び方, 自己の見つめ直し等, メタ認知に関わるもの ➡「子どもから引き出したい振り返り」を明確にしておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でもっと言いたかったこと ・初めて分かったこと ・自分の頑張り ・友達の考えで参考になったこと ・自分や友達のよさ ・今後更に考えたいこと <p style="text-align: right;">等</p> </div>	<p>ふりかえり (メタ認知)</p>		<p>ふりかえり (メタ認知)</p>	<p>6 本時の学習を振り返り, 自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡これまでの自分を振り返り, 自分の課題や今後の目標が持てるようにする。 ➡自己をふり返り, 変容に気づける言葉かけ ➡「振り返り道徳」のすすめ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でもっと言いたかったこと ・自分の頑張り ・友達の考えで参考になったこと ・今までの自分を見つめ直して ・今後更に考えたいこと <p style="text-align: right;">等</p> </div>

ノート指導について

<p>【算数科】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学習日(月日)を記入する。 ② 教科書のページや問題番号を書く。 ③ 問題文を書く…□線で囲む。 ④ 本時のめあてを書く…□線で囲む。 ⑤ 考えたことのメモを残す。 ⑥ 間違えた問題も残し, 赤で訂正する。計算も消さずに残しておく。 ⑦ まとめを書く。今日の学習のまとめをする…□線で囲む。

<p>【道徳科】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学習日(月日)を記入する。 ② 教材名を書く。 ③ 本時のめあてを書く…□線で囲む。 ④ 必要に応じて, 考えたことを残す。 ⑤ 振り返りを書く。めあてと正対するように。 <p>※ 板書をノートに写す必要はない。</p>
--

対話（話し合い活動）での聴くこと・話すことについて

<p>【話す】 ～つながって話す（関わりながら話す）～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 友達の考えにつなげて話す。 ② わかっているところまで話す。 ③ 聞き手に確かめながら話す。 反応がない時は確かめる。 ④ 理由や意味を添えて話す。 ⑤ 絵や図・記号（しるし）を使って話す。
--

<p>【聴く】 ～積極的に聴く（関わりながら聴く）～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えと比べながら聴く。 ② うなずいたり, 首を傾げたり, 小さくつぶやいたり反応しながら聴く。 ③ 友達の気持ちを考えながら聴く。 ④ 「なぜ？」という気持ちで聴く。 ⑤ わからないことがあったら聴く。 <p>反応 「同じ考えです・違う考えです。」自分の考えと比較し立場を明確にする。</p>

小グループでの対話活動について

<p>【留意事項】 ※「学び合いの場のルール」を確立しておく。 ※目的やねらいを明確にしておく。(何のために) ※3～4人程度, 短時間(4分以内)を基本とする。</p> <p>【対話の基本ルール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 互いに聴き合い, 反応する。 ② 聞き手を見ながら, 声の大きさに気を付けて話す。 ③ 途中で分からなくなったら, 「わからなくなりました」ときちんと伝える。 ④ 反応がないときは「どうですか」と確かめる。
--

その他

<p>授業に際しては十分な教材研究を行い, できるだけ板書計画を立てて臨む。</p> <p>【算数科】に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 考えを説明するときは, 既習の算数用語を使って話したり書いたりするよう支援する。 ◆ 新しく学習した算数用語は教室に掲示し, 活用できるよう定着を図る。 <p>【道徳科】に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 道徳の時間に考えたことを, 「道徳学習のあしあと」として教室に掲示し日々の生活につなげていく。 ◆ 授業で活用した場面絵やワークシート等は次年度に活用できるよう保管しておく。
--

マニュアル化して枠にはめるのではなく, 学級や子どもたちの実態に合わせて日々の授業において実践していく。